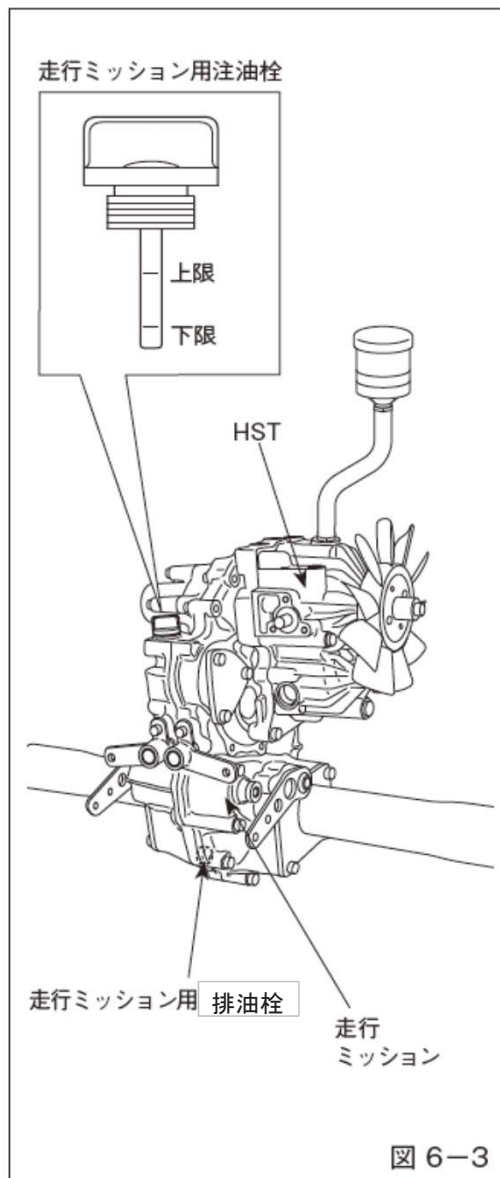


モデル 11-25DK SBC-30H



●オイルの点検は毎日行ってください。

※HSTオイルの保守並びに交換については必ず販売店にご相談ください。

●オイルレベルが、オイルタンクの上限と下限の間にあることを確認してください。オイルレベルはHSTが温度上昇すると熱膨張により上昇します。HSTが冷えている時にオイル量を確認してください。不足している場合には販売店にご相談ください。

●水が混入したり、オイルに異常がないかぎり交換の必要はありませんが、毎年シーズン前の交換をおすすめします。

●走行ミッションのオイル(ディーゼル用エンジンオイル:CD級以上)は、年一回(毎年、雪の降る前に)必ず交換してください。

【交換手順】

1. 注油栓と排油栓を外し、オイルを抜いてください。
2. 完全に抜けた事を確認してから、排油栓を締め、注油口よりオイルを入れます。
3. 走行ミッションのオイル量は2.6Lです。
※ 注油栓を差し込んでオイルレベルを確認してください。
※ 注油時、オイルジョッキの先にビニールホースを 付けると注油が容易に行えます。
4. 注油が終わったら、注油栓を締めます。

ディーゼル用エンジンオイル(CD級相当品)

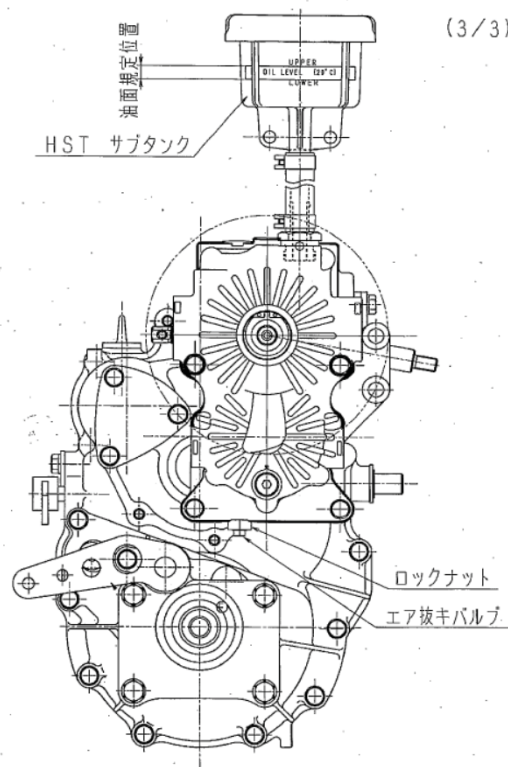
モービル石油 デルバック1300シリーズ10W

・昭和シェル石油 ホワイトパロットS3-10W

・新日本石油 HDS-3

・出光興産 アポロイルディーゼルモチブS310

	初期交換時期	2回目以降	オイル種類	オイル規格	容量
走行ミッション	シーズン前		エンジンオイル	10W-30	2.6L



オイル種類	オイル規格	容量	対象機種
油圧作動油	#32	0.65L	1125DK

HSTエア抜き及び試運転手順

- ① HSTのサブタンクにエア抜き後のオイルレベルの降下を見越して上限位置(UPPERと記載)までオイルを入れる。
- ② エンジンを始動する。
- ③ エンジンアイドリングでHSTレバーを副変速、低速で前・後進させる。(走行させる)

A.本機は動くが車速が低く、HSTのエア噛み音がある場合

- ④ エンジンMAXの副変速・高速で前・後進(10m程度走行)を3~4回繰り返す。
- ⑤ 車速を確認する。
- ⑥ 油面がサブタンク内の規定位置にあるかどうか確認(不足時補給のこと)

*改善されない場合

- ⑦ エア抜きバルブのロックナットを緩める。
- ⑧ エア抜きバルブが閉まっているか確認(閉まっていなければ閉める:9.8±1N・m)
- ⑨ ロックナットを締め付ける。(19.6±3N・m)
- ⑩ エンジンMAXの副変速・高速で前・後進(10m程度走行)を3~4回繰り返す。
- ⑪ 車速を確認する。
- ⑫ 油面がサブタンク内の規定位置にあるかどうか確認(不足時補給のこと)

B.本機が全く動かない場合

- ④ エア抜きバルブのロックナットを緩める。
- ⑤ エア抜きバルブを1/4程度緩め‘ロックナットを仮締めする。
- ⑥ エンジンを始動し、アイドリングにSET
- ⑦ HSTレバーを副変速・低速・前進フルストローク位置まで倒す。(30s程度)
- ⑧ HSTレバーを中立に戻し、エンジンを停止する。
- ⑨ ロックナットを緩め、エア抜きバルブを閉める。(9.8±1N・m)
- ⑩ ロックナットを締め付ける。(19.6±3N・m)
- ⑪ エンジンMAXの副変速・高速で前・後進(10m程度走行)を3~4回繰り返す。
- ⑫ 車速を確認する。
- ⑬ 油面がサブタンク内の規定位置にあるかどうか確認(不足時補給のこと)